

令和7年度 府立洛西高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 確かな学力を身に付けさせるとともに希望進路の実現を図る。</p>	<p>1 学校の教育活動は、新型コロナウイルス感染の流行期を経て、制限を設けずに実施できるようになった。新学習指導要領及び一人一台端末の運用状況については、これまでの3年間で踏まえ、ICTのさらなる活用による授業改善や教育活動の活性化を図ることができた。</p> <p>また、卒業生の進路状況については、国公立大学への進学者数が目標をクリアし、希望進路の実現について継続的な成果を収めることができた。学校の授業を中心に、最後まであきらめず粘り強く取り組むよう指導を進めてきた成果が表れた。</p> <p>令和6年度は特に総合的な探究の時間の充実や洛再Links活動の一層の拡充がなされ、生徒の主体的な学びや探究する姿勢を醸成し、将来の進路実現につなげていける取組として成長しつつある。令和7年度についても本校の4本柱である学習・学校行事・部活動・洛再Links活動の充実に努めていく。</p>	<p>1 一人ひとりの生徒を大切に、個性と能力、可能性を最大限に伸ばす教育活動を推進し、生徒の果敢かつ粘り強い挑戦を支援することで、希望進路を実現させる。国公立大学への合格者数は学年生徒数の1割以上を目指す。また、総合的な探究の時間の充実や洛再Links活動の拡充を図り、生徒の自ら学び探究する姿勢を醸成し、将来の進路実現につなげる。</p> <p>(1) ICT活用を一層推進し、一人一台端末による教育活動をさらに充実させる。一方で、生徒が情報リテラシーに関する知識を身につけ、実践力を高める。また、学習指導に当たっては、基礎基本の確実な習得、生徒が主体となって学ぶ授業への創意工夫、教員相互の授業交流を充実させる。</p> <p>(2) 生徒の果敢かつ粘り強い挑戦を支援し、希望進路の実現に向けての体制を強化する。高校3年生2月以降の指導を充実させノウハウの継承を目指す。</p> <p>(3) 総合的な探究の時間の充実や洛再Links活動の拡充を実践し、地域や社会とつながり、自ら課題を発見し他者と協働しながら活動する力を身につけさせ、自らの在り方生き方を考えさせる活動の充実を図る。昨年度立ち上げた総務企画部Q課の成果を踏まえ、その継続的な改善に努める。</p> <p>(4) 学習・学校行事・部活動・洛再Links活動に全力で取り組む学校文化を醸成し、その活動をとおして豊かな人間性を育むとともに、主体的に行動する力を高める。</p> <p>(5) 生徒指導が学校教育の土台であることを念頭に、温かさの中に厳しさのある生徒指導を推進する。基本的な生活習慣を身につけ、心身ともに健康な生徒の育成を目指す。</p> <p>(6) 各分掌、教科の連携のもと、特別な支援が必要な生徒に対する対応を早め、社会的自立に向けて個に応じた支援を進める。</p> <p>2 本校の魅力を発信することにより、府民、地域、保護者、中学生等からの信頼を高める。特に、本校を第一志望とする中学生の増加を目指す。ホームページやInstagramでの発信を継続するとともに、新聞やテレビなどの媒体にも本校の活動を取り上げてもらえるよう、広報活動、発信力の一層の強化に努める。また、中学校訪問の機会を活用して、タイムリーな情報を提供する。</p>
<p>2 部活動・自主活動の充実・活性化により、豊かな人間性を育み、質の高い集団づくりを行う。</p>	<p>2 部活動、洛西フェスティバル等の学校行事は、充実を図ることができた。特に3年目を迎えたイオンモール京都桂川で実施したオープン文化祭は、多くの府民、中学生、保護者に本校の活動を知っていただくよい機会となった。今後も総合的な探究の時間、洛再Links活動、学校行事、部活動等を一層活性化させ、生徒に自らの在り方生き方をしっかり考えさせ、豊かな人間性を育む取組を充実させていく。</p>	
<p>3 保護者、地域の方々から信頼され、期待される、魅力ある開かれた学校づくりを実現する。</p>	<p>3 今年度の入学者選抜では、中期選抜において、第一志望第一順位の数人は20名程度の回復にとどまったが、第二順位の数人を含めると回復傾向にあり、定員280名で新学年をスタートさせることができた。少子化の影響は否めないが、今後も地域・保護者・中学生等からの信頼をさらに高め、本校の教育活動を広く知ってもらえる取組を充実させる必要がある。ホームページやInstagramでの発信を継続的に強化するとともに、新聞やテレビなどの媒体に本校の活動を取り上げてもらえるよう、広報活動、発信力の強化に努める。</p>	

成果と課題

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 各種会議の連携を図り、学校運営を組織的に進める。 生徒・保護者・地域社会からの期待に応え、信頼される学校作りを一層推進し、本校の教育活動についての特色や魅力に関する情報発信を積極的に行う。 生徒の教育環境の充実に向け、適切な予算執行を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 部長会議を中心とし、各種会議にて課題の明確化とその対応を組織的に検討し、実現可能性を高める。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 部長会議及び各種会議において、分掌部長からの提起により、課題の共有と検討が有効に機能している。 諸問題・諸課題において、情報共有を素早く関係各所に行うことで、連携して組織的に解決に向けた対応ができています。 本校の魅力、教育活動などを発信（学校説明会・HP・Instagram）することや、広報誌・学校説明会案内の頒布すること等の地道な取組が、着実に本校の教育活動の認知向上に繋がっており、学校説明会への希望者が増えた。 校内の危険箇所等の早期発見を行うために、衛生委員会を通じて校内を巡回するなどして、より安全・安心な教育環境作りに努めた。 洛再 Links 等の活動については、1年生の総合的な探究の時間への展開を図り、外部との連携を積極的に行うなど、内外から評価を得ている。今後も継続して更なる発展を行いたい。 特定プロジェクターの不具合など、ICT 環境の更なる充実や、Wifi 環境の充実について、部分的には解決しているものの、予算の関係もあり引き続き課題が残る。
		<ul style="list-style-type: none"> 各種会議での検討内容を全教職員で共有し、共通理解のもと組織的かつ実践的な取組を進める。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 学校内外で実施する本校の説明会や広報誌、ホームページなどの内容を充実させ、その他のメディアも活用しながら、本校の教育内容や特色、魅力等を積極的かつ効果的に広報する。また、Classiを活用し、日々の高校生活等について生徒や保護者へ適切な情報提供に努める。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 洛再 Links 活動等の活動を全校的なものとし、地域とのつながりを大切にすることに努める。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所の早期発見・改修を行い、安心安全な学習環境を整えるとともに、施設設備の充実を図る。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の個性と能力、可能性を最大限に伸ばす教育活動を実現するため、適切な予算執行を行うとともに、奨学金等の情報提供を行い就学支援等の充実を図る。 	B	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨を踏まえながら、授業を通して、進路保障につながる確かな学力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自学自習の学習スタイルの確立と基礎基本の定着を大切にした授業実践で学力伸長を図る。 「指導と評価の一体化」の趣旨を踏まえ、授業改善を図るため、評価方法の検証に取り組む。 	B	B	<p>新入生対象に対しては学習に対する取り組み姿勢を確立すべく、初期指導の充実を図った。今後も、継続して進路実現に向けた学力伸長につながる授業実践を、観点別学習状況評価の検証・改善を踏まえながら続けていく必要がある。行事計画については関係分掌とも連携し、特に生徒対象の学校行事について次年度に向けてさらなる充実を図る。生徒募集に関わっては、各種説明会で本校の魅力を伝えることができた。令和9年度からの入学者選抜制度についても可能な限り情報提供を行った。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 中学生、保護者、地域に「選ばれる学校」となるよう、学校の魅力を伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を魅力あるものにすべく、生徒がやりがいや達成感をもてる行事計画を策定する。 他分掌と連携を図り、学校説明会・各種説明会で入学者選抜に関わる情報を的確に伝える。 	A			
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努め、安全意識（交通安全・防犯・防災）の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常における挨拶や正しい言葉づかい、時間の自己管理を指導する。 	A	B		<ul style="list-style-type: none"> 遅刻指導では、個別に時間を守るための工夫や遅刻しないための計画を考えさせ、改善を目指す指導を行うことができた。 身だしなみについては、学年と協力しながら指導を行っている。また違反があった際にはクラス掲示等で注意喚起を行った。今後も校内だけではなく他校とも情報共有をしながら必要に応じて、指導の在り方を検討していく。 自転車通学者の事故件数は例年通りであったが、1年生対象の自転車安全利用推進員講習の内容を精査したり、風紀委員と考査期間に下校指導を行ったりと、安全指導を改善することができた。 スマホ・タブレット端末の使用について指導を行っているが、より効果的な指導を実践していくために、今後も他校や警察と情報交換を行っていく。 洛西フェスティバルを中心に学校行事に主体的に取り組むことができた。また学校行事については次年度以降に向けた見直しも進めることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 日々の身だしなみ指導を通じて、TPOに合わせた身だしなみを正しく判断できるよう指導する。 	A			
		<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学者を中心に、登下校時の安全指導を充実させる。 	B			
		<ul style="list-style-type: none"> スマホ・タブレット端末の使用のマナー、SNSやインターネットとの関わり方など情報機器の正しい使い方を指導する。 	B			
	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学習環境を作り、個性と能力、可能性を最大限に伸ばす教育活動を行うとともに地域や社会とつながり、自己を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権学習の内容を充実させ、一人一人の意識を高め人権を尊重できる集団となるように指導する。 部活動や学校行事、特に洛西フェスティバルの取組を通して、主体性や協調性を向上させられるよう指導する。 	B			
		A	A			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導等により、生徒一人一人の進路を実現する。 大学進学に関する具体的目標としては、国公立および難関私大への実合格者80人を目標としつつ、国公立大学、難関私大への合格者数、及び主に創造クラスからの難関中堅私大への合格数者を指標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の各組織と連携しながら、生徒が自ら将来像を描き、よりよい進路選択をしていくように促す。 	B	B	<p>校内で連携しながら、進学講習、進路行事等を通じて生徒の進路実現に向けた取組を実施することに尽力した。</p> <p>特に大学・社会人を活用した講演や模擬授業（説明会・土曜活用）を充実させた。</p> <p>また、国公立大学の推薦入試や総合型選抜へ向けて、面接や小論文の指導を強化した。</p> <p>今後も生徒の学力伸長に向けた取組を継続していく必要があると思われる。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 探究クラス、創造クラスともに確かな学力を身につけて希望進路を実現するために、生徒への働きかけを講じるとともに、担任・教科担当への情報提供に努める。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、高大連携等を活用しながら、様々な刺激を与える。 	A	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 個人面談を通じて一人一人の進路実現への助力を行う。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 大学入試等の動向について、適切な情報収集と対応を図る。 	B	B	
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣を身に付け、礼儀やマナーに則った行動ができるように指導する。 部活動や自主活動に参加し、生徒が意欲的・主体的に取り組む姿勢を育てる。 授業を中心に、予習・復習の学習サイクルを実施し、家庭学習習慣を確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他分掌とも協力し朝の登校指導を積極的に行う。時間厳守、挨拶の励行、身だしなみを整える等を当然として捉え、自ら考えて行動する力を育てる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> SNSの使い方に関しては、情報モラルに関する指導を生徒指導部の資料をもとに指導した。しかしトラブルを完全に防ぐことはできなかったため、指導が入りにくい生徒への対応など、初期指導を1学期に今まで以上に具体性をもって丁寧に行う必要を感じた。 GateLinksに全員が参加し、自然に触れながら普段の学校生活では体験することのできない活動に取り組むことができた。Links同好会で充実した体験を積んだ生徒も多くいた。多くの生徒が部活動に励んでおり、次年度も積極的に活動・挑戦する機運を高めていきたい。 学年主催のLEAPコンテストやSHRを用いた小テストなどを実施し、家庭学習の習慣づけを励行した。発展クラスにおいては進研模試の前には過去問を解いて臨む生徒も見られた。ただし継続的に学習する習慣をつけることやClassiの活用には課題が多い。学ぶことの意義を考えさせる機会をもちたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事、洛再Links活動への参加を促し、「今しかできない体験」を通して豊かな人間性を育む。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> Classiを有効活用し、学習状況の把握やフィードバック、模試の振り返り等を行い、学習意識を高める。 	B	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から生徒とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を構築する。また、家庭と連携を図りながら、生徒の個性や能力を伸ばす教育を充実させる。 		B		
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人を大切に、個に応じた指導を行う。 		B	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な進路実現を意識した取組の中で、授業を中心とした学習環境を整え、学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> SHRの時間を有効活用し、読書やフリーライティング、100マス計算等の「朝活」を充実させて、学習意欲を引き出す。 ICT機器を活用し、学習時間の見える化を図り、学習意欲の向上につなげる。 ICT機器を活用し、模試前には学習課題の配信、模試後には、苦手な分野の復習などに取り組みさせる。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝8時30分には着席し、5分間、読書の時間として定着させることができた。またフリーライティングや、学年部主催の英単語コンテストや大学入試問題へのチャレンジ、また難関大を目指す「UNIKEY」の発足等、学習意欲向上につながる取組を実施することができた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 今しかできないことに1つ以上挑戦させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームの役割や、委員会活動、部活動や学校行事等において生徒が主体的に活動できる環境を整え、何事にも挑戦する姿勢を育てる。 昨年度、全員が参加したGateLinksを礎にPlusLinksへの参加や、ボランティア活動などへの積極的な参加を積極的に呼びかける。 	B		B	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間の見える化については、継続できなかったクラスが多くなり、次年度に向けて生徒の学習状況をどのように把握し、声掛けを行うことができるかが課題となった。
	<ul style="list-style-type: none"> 当たり前のことを当たり前に行える集団づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が、安心安全な学校生活を過ごすことができるよう、細やかな声掛けや面談を行う。 「報告」「連絡」「相談」を軸に、日常的にコミュニケーションを大切にしながら、時間厳守、挨拶の励行、身だしなみ等あらゆる場面で継続的に指導を行う。 	A			B

第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を意欲的に送るなかで、これまでの2年間に築き上げられた関係に基づき、互いを尊重し、高め合える質の高い集団づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が他者との協働を重んじつつ何事にも主体的に行動することで学校生活において充実感を得られるよう、適切にサポートをする。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や洛西フェスティバル（文化の部・体育の部）において仲間やクラスメイトと協力しながら最高学年として下級生の模範となった行動を一定取ることができたと考ええる。 大部分の生徒が自立した大人への過程を順調に進んでいると思われるものの、一部の生徒が3学期に至っても遅刻を繰り返すなど学年として課題が残った。 就職および専門学校・短大・四年制大学に進学する者など、一人ひとりの進路実現に向けてさまざまなことに取り組んで進めてきた。指定校をはじめ推薦入試で合格した者も自己推薦や一般入試で合格した者もそれぞれに努力を重ねて高校での学習を終えることができているものと考ええる。 全体に関して、生徒が入学から卒業の間に学年全体で一体感を持って過ごすように指導してきた。他者との関わりのなかで互いを尊重しながら高めていくことを是として発信してきたが、多くの生徒に伝わったのではないかと思われる。
	<ul style="list-style-type: none"> 自立した「大人」として、きちんとした基本的生活習慣を身につけ、礼儀や規律を自発的に守る態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部とも連携し、成人年齢を迎える者としての自覚を持たせ、時間厳守・挨拶励行が習慣づくように継続的に指導する。 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> 授業を中心とした学習環境を整え、学力の向上を図りつつ、希望進路を実現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車乗車や身だしなみに関するルールの意義を理解したうえで遵守できる生徒を育てる。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査に対する取組を通して学習の重要性に気づかせ、それぞれの進路目標の実現を目指して最後まで努力する姿勢を大切にさせる。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 個人面談や日々の声かけ等の機会を大切にしながら、生徒ひとりひとりに応じた進路目標が決定できるようにサポートする。 	A	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部との連携を密にし、Classi等を活用して生徒、保護者に適切な情報提供ができるよう努める。 	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
保 健	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人を大切に、学校経営計画に基づく様々な教育活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健管理や保健指導を計画的に実施する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議を通じ、校内で必要な情報を共有し、生徒指導に役立てることができた。必要に応じて教科担当者会議を開いたが、引き続き生徒の状況把握に努める必要がある。 支援の必要な生徒には外部機関と連携をとり支援の充実を図った。教科担当者会議を開いたり定期的に生徒情報を共有したりして、教職員の中で共有することができた。しかし、それぞれの様子が違うため、個々に対する対応の仕方を考えていく必要がある。 各種検査を実施することができた。環境整備については今後も事務部と協力して進めていきたい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 不登校等の未然防止や学校生活を送るうえで支援を必要とする生徒への早期対応を図る。学年部や関連分掌と連携し、兆候を早期に把握し、必要な手立てをとる。 	A			
	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の充実に向けて関係機関、各分掌との連携を図る。 	A	A			
	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境を整備し、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検や清掃用具等の点検整備を進める。 	A	A		B
	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健会議を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種検査を活用し、教育活動に係る環境整備を進める。 学校医、学校歯科医、学校薬剤師との連携を大切に、学校運営に活かす。 	B	B		
<ul style="list-style-type: none"> 感染症防止への対策に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いや換気等、感染予防を徹底すると共に、事務部と連携し、消毒等の環境整備に努める。 	B	B			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
図書	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画に基づく教育計画や教育指導への支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 探究型学習、調べ学習、図書館利用学習への直接的支援や援助を行う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して国語科や英語科などの教科と連携して図書の貸出を実施し、授業内容に応じた資料提供を行ったことで、学習の深化に寄与した。また、「帯コンテスト」や「ビブリアバトル」などの読書関連イベントを実施し、生徒が主体的に本と関わる機会を創出し、図書館活動への参加意識を高めることができた。また、読書感想文・体験記コンクールでは教科と連携して指導や助言を行い、複数の生徒が受賞する成果も得られた。 ICT環境を活かした情報活用学習の支援体制については、授業との連携をより計画的に行える仕組みを整え、次年度から本格的に実施していきたい。 学校行事や人権学習等の時期に合わせて特集展示を行い、啓発活動を実施することができたが、展示資料の積極的な利活用にはつながらなかった。今後は、授業での活用も視野に入れ、ロイロノートやClassi、Teams等を活用して校内に向けた情報提供を行うなど、より効果的な発信方法を検討し、改善していきたい。 団体鑑賞については、生徒アンケートの5段階評価で平均4.6という高い結果が得られ、演目への満足度が高いことが確認できた。 文化祭の演劇の脚本や映像資料については、学校資料として整理・保存・活用が十分にできている。 『洛西選書』や広報紙の発行・装飾や展示等を通じて、生徒の読書活動の啓発に努めた。 Instagramは週2～3回の更新を継続できており、SNSを活用した情報発信は順調である。一方で、ホームページの更新が滞っており、作業フローや運用体制、役割分担に課題が見られる。今後は、OPACとの統合も含め、ホームページ運用の在り方そのものを再検討する必要がある。 図書委員会による自主的な企画運営を促すことで、生徒主体の図書館活動を広げていくことができた。また、国際日本文化研究センターでの図書館見学や京都市洛西図書館との連携事業をスタートさせ、地域社会とつながる学びの機会を生徒に提供する取り組みも進めることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 図書館とICTを組み合わせ、生徒が情報を効果的に活用し、学びを深めることができるよう、ICT環境の整備に努める。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や人権学習等の取り組みに積極的に協力し、特別展示などを通して啓発活動を行う。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 教育的効果を考慮した団体鑑賞を実施する。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事のビデオ撮影を行い、学級活動等に提供する 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に読書に親しむ生徒を育て、読書を通じて豊かな人間性を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員会の活動を活性化させ、自主的な取り組みを増やし視覚的にも楽しい図書館にする。 	A	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 図書館ニュース、新着図書案内、洛西選書等を発行する。特設コーナーや館内イベントを充実させ、読書の啓発に努める。 	A			
	<ul style="list-style-type: none"> 図書館管理システムによる蔵書管理を効果的に行う。 	A			
	<ul style="list-style-type: none"> 地域・保護者・中学生等に積極的に広報する。また、外部の公的機関等との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページやSNS等を通じて広報、情報発信を行う。 	B	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 公共図書館との連携を深める。 	A	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
総務企画	<ul style="list-style-type: none"> 生徒募集に関して、志願者である中学生の減少傾向を踏まえ、本校の教育活動の特色などを、さまざまな機会を活用し、中学生及びその保護者、地域にわかりやすく伝える発信力を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校内外で実施する本校の説明会や、広報紙、ホームページ等の内容を充実させ、本校の教育内容や特色、魅力等を効果的に発信する。 Instagramの発信を、他分掌の教職員の協力を取り入れつつ、強化する。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 中学校等における説明会に積極的に参加した。 Instagramについて、9月以降は他分掌の教職員の協力のもとに週2回以上発信できた。 ホームページにおける早くの情報発信を意識して実施できた。 PTAと連携し、多くの行事を実施できた。 PTA総会や文化祭での模擬店など多くの行事を実施し、有意義なものとなった。今後も会員の交流を目的とした行事を、保護者の意向を伺いながら実施していきたい。 「グローバルネットワーク京都」に積極的に取り組むことができた。 全校的な洛再Links活動を計画的に実施した。 学校外での活動や学校外との連携活動を、数多く実施した。 洛再Links同好会に所属する生徒が増え、昨年度より質・量ともに充実した活動ができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 在校生及びその保護者に適切に情報提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページを活用し、必要な情報を的確に発信する。 行事などの発信をなるべく早く行う。 	A		
	<ul style="list-style-type: none"> PTAとの関係を深め、信頼される学校作りを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> PTAとの連携を深め、PTA総会をはじめとする各種委員会の活動や諸行事、PTA広報誌「まほろば」の発行などを通して、PTA会員同士の交流が有意義なものとなるように副校長と共にバックアップする。 	A	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 府立高校特色化事業等の取組として、総合的な探究の時間や、洛再Links活動等を通して、生徒の社会的科学的視点や、国際的な視点などを養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年部や教科と連携して「総合的な探究の時間」や「グローバルネットワーク京都」の取組を計画的に推進し、年度末の発表に向けて準備を進める。 洛再Links活動を全校的な取組として位置づけ、積極的に推進し、活動を発信する。 生徒の積極的な参加を促す。 	A	A	
ICT推進	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して日々の校務を効率的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ClassiやTeamsなどの授業支援システムの有効な活用を進める。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ClassiやTeamsなどのコミュニケーションツールの整理、ファイルサーバーの空き容量の確保を行った。 ロイロノートについては、活用の促進を目的に授業公開の形で研修を実施したが、参加者が少なかった。 授業におけるICT機器の効果的な利用、さらには探究的な学びへの活用をどう進めるかについては、ICTのアンケート結果も参考にしながら、引き続き検討していく。 ICT機器の故障が増えており、機器の更新が必要な時期を迎えているので要望していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用して授業・学習活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導を効果的に進めるために、ロイロノートなど学習支援アプリの積極的な活用を推進する。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した効果的な実践について共有する。 		A	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
事務	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の個性と能力、可能性を伸ばす教育活動を実現するため、適切な予算執行を行うとともに、奨学金等の情報提供を行い、修学支援等の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動に何が必要かを教職員と連携して検討し、有効で適切な予算の執行を行い、必要な物品等は速やかに購入する。 危険箇所の早期発見・改修を行い、安心安全な教育環境を整備するとともに、施設設備の充実を図る。 多種多様な奨学金制度について本校のホームページを活用し、情報提供を行うとともに、円滑な事務処理を行う。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 限られた予算を有効に使えるよう計画的な予算執行に努めた。 建物・施設の老朽化により、対応箇所が増えているが、可能な限り早急に対応した。 視聴覚室の空調更新工事の入札を学校で行い、故障していた旧式の大型空調設備の更新を行った。トイレ改修、図書室のアクセスポイントの増設、美術室のエアコン設置等大型工事を多く実施できた。 普通教室の蛍光灯をLEDへ取替工事を終了し、普通教室が明るく改善された。今後、特別教室のLED化を行っていく必要がある。 公的な支援の制度については、申請漏れがないよう、個別に声かけ等も行った。 適切に、素早く丁寧な案内ができるよう、職員間で情報共有に努めた。 普通教室のエアコンの更新工事を本庁執行で行い、授業や行事に支障が出ないよう教員と調整し、週休日、祝日に工事対応をこなしながら業務を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域の方々から信頼されるように外部と接触する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電話や窓口業務の対応で、保護者や地域の方々から信頼されるように言葉遣い等に留意する。 	A	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域の方々から信頼されるように外部と接触する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電話や窓口業務の対応で、保護者や地域の方々から信頼されるように言葉遣い等に留意する。 	B	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 今年度本庁執行工事で実施される空調更新工事をスムーズに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内における調整を行い、学校全体の教育活動に支障が出ないよう計画していく。 	B	B	
			A	A	

<p>学校関係者 評価委員会 からの評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が進行するにつれて、生徒や保護者の学校生活に関する満足度が増えている様子がうかがえる。教員から生徒へ対するサポートが手厚いことを感じる。 ・学校経営計画の最終評価については、厳しく自己評価をつけている分掌がある。その理由が、今後の課題が明確である為であることが分かったので、今後の取組に期待ができる。 ・学校評価アンケートについては、生徒・保護者間の意識で、差の大きい項目がある。もっと保護者を巻き込んで、教育活動を行ってもよいと思われる。 ・本校は自転車通学の生徒が多いため、次年度からの自転車違反「青切符制度」について丁寧な説明が必要になるだろう。
----------------------------------	--

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学習活動・学校行事・部活動、及び洛再Links活動の四本柱を充実させることを基本とする。 ・自転車マナーを向上させるよう、生徒への指導を充実させるとともに、教職員と生徒・PTA、地域や行政とも連携して取組を進める。また、4月から始まる自転車違反「青切符制度」についても計画的に指導を行う。 ・支援が必要な生徒に対して、引き続きスクールカウンセラー・まなび生活アドバイザーや外部関係機関等と連携しながらサポートを行い、生徒本人自身が自覚して工夫し、課題を乗り越えられることを目指す。 ・PTA行事に対し、保護者の意識が高まるよう、ニーズに応じた企画を考えるとともに、十分な周知・配信を行う。 ・洛再Links活動を全教職員の取り組みのもとで、さらに充実させていき、生徒の進路実現に活かすことができるようにする。 ・正しい学習方法やコミュニケーショントラブル回避への指導を、新入生の早期段階で手厚く行い、充実した3年間の学校生活への礎を固める。
--------------------------------	---